

中高年の危機

～追いつめられる人々にどう向き合うか～

日時:2016年1月9日(土)14:00～17:30

場所:南山大学名古屋キャンパスR棟R32教室

講師: **生越照幸氏**

(弁護士法人ライフパートナー法律事務所所長)

「中高年の自殺への危機経路」



松本晃明氏

(静岡県立静岡がんセンター腫瘍精神科部長)

「睡眠と中高年の自殺予防」



コメンテータ: **森山花鈴氏**

(南山大学社会倫理研究所第一種研究所員/総合政策学部講師)

日本における年間自殺者数2万5000人。毎年、交通事故死者数の約5倍の人たちが自殺する中で、40代から60代までの男性が全体の約4割を占めます。

本懇話会では、これまで過労自殺をはじめとする自殺案件の弁護に当たってきた生越照幸氏に、追いつめられる中高年の自殺の実態を伺うとともに、中高年の自殺対策に長年取り組まれてきた松本晃明氏にその対策案について伺います。

(南山大学社会倫理研究所では、2016年度より、「レジリエンスの社会倫理的基盤構築」を研究所が取り組む共通テーマとして掲げ、そこに連なる幾つかの研究プロジェクトを実施していく予定です。今年度は、それらの研究プロジェクトに向けた懇話会を数回開催していきます。今回は、「いのちの支援」研究プロジェクトの第一弾となります。)

【お問合せ】南山大学社会倫理研究所

Phone: (052) 832-3111 (内線3413・3414) Fax: (052) 832-3703

E-mail: ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp HP: <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/ISE/>

中高年の危機

～追いつめられる人々にどう向き合うか～

演題①: 中高年の自殺への危機経路

趣旨: 中高年が自殺に追いつめられる過程(危機経路)は、社会的な地位や自尊心が奪われていく過程でもある。会社員としての地位や、夫としての地位などが奪われた結果、自殺に追い込まれてしまうのである。すると、中高年の自殺を防止するためには、危機経路に現れた様々な法的問題の解決に加え、生き方や考え方に關わる問題に向き合うことが必要になろう。今回は、実際の事例に触れながら、中高年の自殺への危機経路に介入することは可能なのか、また、介入すべきなのかについて検討を行う。

演者: 生越 照幸(おごし・てるゆき)(弁護士法人ライフパートナー法律事務所所長)

《略歴》1970年生まれ。東北大学工学部卒業、同大学院国際文化研究科修了、「自殺実態白書2008」製作コアメンバー、厚生労働省「職場におけるメンタルヘルス対策検討会」メンバー、一般社団法人自殺対策全国民間ネットワーク監事、自死遺族支援弁護団事務局長。2012年よりライフパートナー法律事務所を設立。2015年2月弁護士法人化。大阪弁護士会所属。

《専門領域》法律、自死遺族支援

《主要著書》『自殺問題と法的支援: 法律家による支援と連携のこれから』(日本評論社、2012年)

演題②: 睡眠と中高年の自殺予防

趣旨: 自殺の多い中高年男性を対象に、自殺と関連の深いうつ病の早期発見・早期治療システムの構築を目的とした「うつ自殺対策・富士モデル」がある。本モデルでは、うつ病の必発症状である不眠に着目し、「お父さん(パパ)、眠れてる?」「2週間の不眠はうつのサイン」などのメッセージを静岡県富士市内の人々に伝えることによりうつ病の気づきを促す「睡眠キャンペーン」を展開し、最終的には全国的に取り組まれるようになった。今回は、この取組を紹介することを通じて、効果的な自殺予防対策の組み立て方や考え方の事例を提示するとともに、自殺予防に取り組む上でかかせないポイントを明らかにしたい。

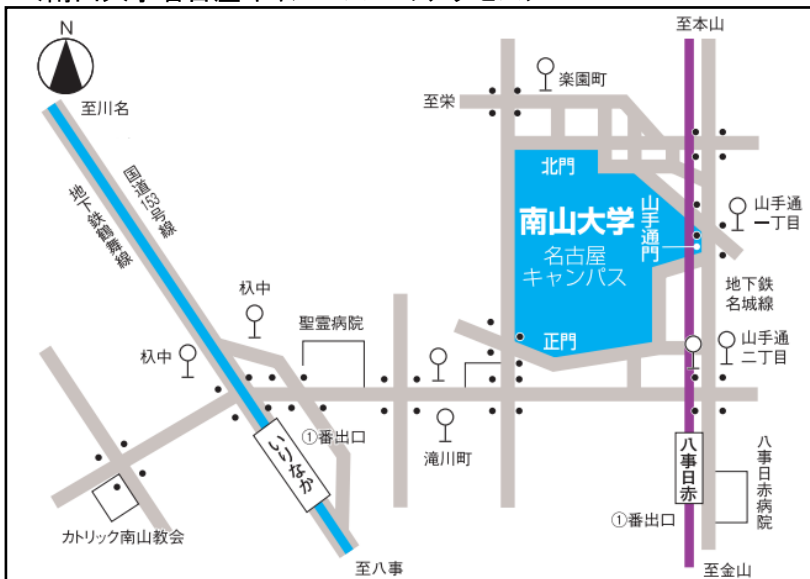
演者: 松本 晃明(まつもと・てるあき)(静岡県立静岡がんセンター腫瘍精神科部長)

《略歴》静岡県立静岡がんセンター腫瘍精神科部長(精神科医)。1990年浜松医科大学医学部卒業。浜松医科大付属病院精神神経科などでの研修を経て、1998年より静岡済生会総合病院精神科(科長)に勤務。その後、静岡県精神保健福祉センター所長、厚生労働省精神・障害保健課課長補佐などを歴任し、2013年5月から現職。精神保健福祉センター時代に「働き盛りのうつ自殺対策・富士モデル」を推進。

《専門領域》精神医学、自殺対策、終末期医療

《主要著書》『うつ自殺を止める ―睡眠からのアプローチ』(ちくま新書、2011年)

<南山大学名古屋キャンパスへのアクセス>



- 地下鉄名城線「八事日赤」駅より徒歩約8分
- 地下鉄鶴舞線「いりなか」駅1番出口より徒歩約15分

※会場のR棟は、正門近くです。

参加費は無料です。

出席をご希望の方は事前に下記までご連絡いただくと幸いです。当日参加でも結構です。

《連絡先》南山大学社会倫理研究所
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone: (052)832-3111(内線3413, 3414)
Fax: (052)832-3703
E-mail: ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp